



様式第6号 (第6条関係)

平成31年4月26日

安曇野市議会議長 小松洋一郎 様

会派名 政和会
代表者氏名 平林 徳子
経理責任者氏名 小林 陽子

平成30年度政務活動費収支報告書

安曇野市議会政務活動費の交付に関する条例第9条の規定により、平成30年度政務活動費収支報告書を提出します。

1 収支決算

収入の部

(単位：円)

項目	決算額	備考
政務活動費	720,000	120,000円×6名分
合計	720,000	

支出の部

項目	決算額	備考
調査研究費	335,430	宿泊費 57,800円 土産代 5,490円 交通費 272,140円
研修費	218,746	宿泊費 30,600円 交通費 61,850円 受講代 125,000円 振込手数料 1,296円
資料購入費	2,700	日本教育新聞
広聴費	14,735	会場使用料 2,460円 印刷費 7,643円 資料作成用紙 1,128円 お茶代 3,504円
合計	571,611	

2 収入支出差引残高 148,389 円

備考

- 備考欄には、主たる収入支出の内訳を記載すること。
- 政務活動実施状況 (別紙) を添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	福岡県北九州市視察研修	
活動区分	⑦調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	福岡県北九州市の「男女共同参画・女性活躍の推進」、「ウーマンワークカフェ北九州」、「先進的介護モデルの実現に向けて」、「シニア活躍！セカンドキャリア支援プロジェクト」について視察し、市政に反映させるため	
活動の概要	日時	平成 30 年 6 月 27 日（水）から平成 30 年 6 月 28 日（木）まで
	研修先・主催者等	福岡県北九州市 1 「男女共同参画・女性活躍の推進」 2 「ウーマンワークカフェ北九州」 ・・・総務企画局 女性の輝く社会推進室 3 「先進的介護モデルの実現に向けて」 ・・・保健福祉局先進的介護システム推進室 4 「高齢者の就業支援」 ・・・産業経済局雇用政策課
	報告内容・実施したこと。	1 「男女共同参画・女性の活躍の推進」 ・同市は、全国初のイクボス宣言をし、市内企業・団体のトップによる「イクボス同盟」を設立。特に 40 代・50 代の中間管理職向けに意識改革を促す。 ・女性活躍・WLB（ワークライフバランス）の取り組みに優れた企業を毎年 5 社程度表彰。12 年目となる。 ・北九州ダイバーシティネットワークにおいて、各企業の女性活躍 WLB 推進担当者間での定期的な情報交換を行なっている。 ・企業の要望テーマに応じ講師を派遣し、研修を実施。現在は介護と仕事の両立をテーマにした研修がほとんどである。 ・夫婦で考えるハッピー仕事×子育て術等の講座を開催。 2 「ウーマンワークカフェ北九州」 ・国・県・私が入り一体となり、女性活躍推進をワンストップでトータルサポートするための施設。 ・就業支援、就業継続・キャリアアップ支援、創業支援、子育てとの両立支援を行っている。

	<p>3 「先進的介護モデルの実現に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別養護老人ホームにロボットを導入して介護職員の時間的・身体的負担の軽減、生産性向上を目指す。 ・ ロボット産業を市内に集積して産業振興を図る。 ・ 国家戦略特区を取得し、ワーキンググループ、倫理審査委員会、特養老の三者で実証体制を確立。 ・ 介護職員の作業姿勢の分析データを、ロボット開発業者に提供し、技術開発を促進。 ・ 介護職員にロボット技術の講習を実施し、介護ロボットマスターを育成。 ・ 介護保険にロボットの制度化、人員配置基準の緩和を目指す。 <p>4 「高齢者の就業支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中高年者への重点的な就労支援を実施し「生涯活躍のまち」の実現を目指す。 ・ 国と緊密な相互連携を図り、シニアハローワークを運営。 ・ 首都圏に住むシニア世代のセカンドキャリア構築を支援し、定住・移住を促進。 ・ キャリアカウンセルを実施し、未経験の職種の可能性を探索。 ・ シルバー人材センターと佐川急便が提携し、ドライバーの再配達の負担を軽減。
<p>まとめ（感想・市政に活かせること等）</p>	<p>1 「男女共同参画の本気の取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内で進んで推進し、市内企業・団体へと広める。市は推進企業に予算をかけずに表彰によって名誉を与え、企業にとっては女性が働きやすい会社として広く認知されるメリットがある。 ・ 様々な取り組みが功を奏して、同市職員男性の育児休業取得率は14.8%と地方自治体平均の3.8%と比べ高い。育児休業を取得し子育てに積極的に関わることで、仕事スキル面でも段取り力がつき、仕事が属人的からシステム化に向かう事例がみられた。 ・ 同市は、合計特殊出生率が1.61%と政令指定都市では1位。働きながら子育てがしやすい自治体は出生率が上昇する。 <p>2 「女性の働く、をトータルサポート」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設立の経緯は市長選公約の女性の活躍推進で、市長が旗振り役となり全国初の国・県・市が一体となって運営する施設となった。三者連携には多くの人材が関わっており、事業の成功に向け情報

		<p>交換をしながら業務改善に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な利用者である 20～40 代女性の視点に立ち、市広報、HP に加え、SNS（フェイスブック）で情報を発信している。小倉駅徒歩 5 分の立地で、フードコートと隣接し、上階には子どもを遊ばせられる屋内施設があり、子育て中の女性が子どもと遊びに来た時にふらっと立ち寄れる。市民目線のサービスは必須である。 <p>3 「介護ロボットが実装される社会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3Kと言われる介護職だが、ロボット実証が始まってから離職率がゼロになったという。介護職員のやる気、働き甲斐に繋がっているのは大きな収穫。 ・超高齢化社会を迎え、介護職員が不足するのは必至。ロボットの導入で、介護の質を維持しつつ、作業効率を図ることの道筋が示されている。 <p>4 「シニアの再就職トータルサポート」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化社会になり、若年層に頼っていられなくなった。元気な高齢者が、経験や技術を発揮し続けられる社会にシフトしていかなければならない。 ・シニア世代はまだまだ働けるという点に着目し、それに特化した就職支援を実施している点が先進的。 ・上場企業のシニアを地方の中小企業に紹介するには、賃金面のハードルがある。セカンドキャリア支援はなかなか成功に結びつかないという。実現した3件の動向を追うことが、課題解決のヒントになるのではないか。
--	--	--

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	奈良県生駒市、三郷町視察研修	
活動区分	⑦調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	1 奈良県生駒市の育児支援行政サービスについて視察し、市政に反映させるため 2 本市と友好都市である奈良県三郷町の童謡のまちへの取り組みと議会だよりについて視察し、市政に反映させるため	
活動の概要	日時	平成30年11月20日(火)から平成30年11月21日(水)まで
	研修先・主催者等	1 奈良県生駒市「育児支援行政サービス」 ・・・子育て支援総合センター 2 奈良県三郷町「童謡のまちへの取り組みと議会だより」 ・・・町役場・図書館・町議会
	報告内容・実施したこと。	1 「奈良県生駒市の育児支援行政サービス」 ・0～2歳の子どもと保護者が利用できる常設の屋内遊び場である「子育てサロンみつきランド」を運営。 ・同じ月齢、年齢の保護者同士の交流を目的にひろば事業を展開。 ・父親対象の育児講座、ひろば事業に力を入れている。 ・授乳やおむつ替えのできる施設を登録し公表する「赤ちゃんの駅」を市内に増やすことにより、子育て中の親子が安心して外出できる環境を整備している。 ・子育て御朱印帳は、スタンプラリー感覚で子育て世帯の外出を促し、子育ての孤立を防ぐ。 2 「奈良県三郷町の童謡のまちへの取り組みと議会だより」 ・三郷町には、童謡「きらきらぼし」の日本語詞を作詞し、三郷町の文化振興に多大な貢献をしている童謡詩人の武鹿悦子氏が在住。 ・大正7年創刊の児童雑誌「赤い鳥」で「童謡」という言葉が発表されてから100年になる平成30年に、同町は「童謡のまち」宣言をした。 ・近鉄信貴山下駅前には、森宏範町長自らも制作に関わった「きらきら星オルゴール水車」が町のシンボルとして設置されてい

		<p>る。ゴミ収集車や役場庁舎の電話保留音も「きらきら星」のメロディーを使用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「童謡のまち」宣言を機に、童謡・児童文化の風土づくりに勤しみ、心安らぐまちの振興を推進している。 ・議会だより「三郷議会だより」と「広報さんごう」が似たようなものになっており悩ましいことだ。 ・議会だよりのページ数は安曇野市議会だよりの3分の1ほどで低予算で作成されている。町民に伝える内容が完結にまとめられている。
	<p>まとめ（感想・市政に活かせること等）</p>	<p>1 「奈良県生駒市の育児支援行政サービス」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設の子育てひろばは出産・子育てする家族を丸ごと受け入れ、居場所を作り、子育て世帯の孤立化を防ぐのに有益である。近年全国に取り組みが広まっており、7,000ヶ所に及ぶということだ。茅野市、諏訪市、塩尻市等の近隣市も整備しており、特に寒さの厳しい冬の親子の居場所として活用されている。子育て支援に力を入れる本市も設置したい施設である。 <p>2 「奈良県三郷町の童謡のまちへの取り組みと議会だより」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安曇野市童謡まつりと「童謡のまち」宣言をした三郷町の童謡事業と、特に子どもたちの相互交流について意気投合した。平成30年12月議会の内川集雄議員の一般質問において「めえめえキラキラ交流」を提案した。童謡祭りをつなぐ友好都市のさらなる深化を目指す。 ・三郷町の議会だより作成においては、ページ数、予算、編集の手間のかけ方等、本市とは違いが顕著であった。一般質問は全員分の載せるのではなくピックアップ方式で、議会だより全体も簡潔にまとめられており、議会のまとまりのよさが表れていると感じた。市民に広くわかりやすく議会の活動を知ってもらうという目的は同じであれば、三郷町議会のアプローチも参考に簡潔化を検討してみるのも一考だと思う。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	TRC（まちの課題を解決する図書館）主催のセミナーへ参加	
活動区分	⑦ 調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	公共施設マネジメントをテーマとした研修を通じ、最新の知識を学び、本市の公共施設再配置計画等の市政に反映させるため	
活動の概要	日時	平成 30 年 10 月 17 日（水）13 時 30 分から 16 時 30 分まで
	研修先・主催者等	TRC（まちの課題を解決する図書館） 図書館流通センター関西支社 研修室
	報告内容・実施したこと。	<p>「公共施設の老朽化・更新問題をこうして打開せよ！ ～「経営的・実践的」公共施設マネジメントのすすめ～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多額の初期投資をした公共施設が膨大なランニングコストやサービス不十分でがらがら状態、というのが自治体の経営感覚。 ・各自治体の「公共施設等総合管理計画」は国の公共施設総合管理計画に基づき策定されているため理想論・机上論でしかない。 ・実践の欠ける教科書型行政には限界があり、公共施設等総合管理計画は多くの自治体で行き詰っている。 ・具体的な手法として、EDB 型 ESCO や指定管理者募集の与条件を最初の段階で民間業者に意向調査して進める、サウンディング型市場調査がある。 ・PPP/PFI の成功例があるが、各自治体に取り入れるかは自治体のやる気の問題。自分ごととして考える。 ・公共施設のマネジメントには、面白いことを許容して、特定の層にターゲットを絞り、非日常的・特別な体験を提供することが必要。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	<ul style="list-style-type: none"> ・本市で進めている「公共施設再配置計画 10 年計画案」は、従来型の施設評価をしており、市の現状・文化が加味されず、市民の意向が取り入れられていないため、実際に実行する段になると市民不在の進め方に市民の不満が噴出している。早急に見直す必要があるのではないだろうか。 ・無駄を省き、自分たちのまちの生き方を自分たちで決める覚悟

		<p>をもって進めることが公共施設マネジメントでは求められる。</p> <ul style="list-style-type: none">・本市でのこれからの公共施設のあり方として、面白いことを許容し、「多目的」ではなく、ターゲットを絞って非日常的で特別な体験を伴うことが必要。市民の憩いの場や観光客の誘客などを実現できるよう提案したい。
--	--	--

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	地方議会議員研究会主催の研修会へ参加 研修1 = 「学校統廃合と廃校の利活用」 研修2 = 「キラリと光る質問原稿の書き方」	
活動区分	①調査 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	1 安曇野市公共施設再配置計画に伴い、教育施設の中で小中学校について今後議論される可能性を見込み、基礎知識を学ぶこと 2 議員として政策提言や行政所信をたやすための質問が専門性の中にも市民に理解される手法など一般質問の基礎知識を学ぶため	
活動の概要	日時	平成31年1月28日(月) 14時00分から16時30分まで 平成31年1月29日(火) 10時00分から12時30分まで
	研修先・主催者等	主催者 = 地方議会議員研究会 場所 = TPK東京駅八重洲カンファレンスセンター
	報告内容・実施したこと。	報告内容(ポイント)は別添のとおり
	まとめ(感想・市政に活かせること等)	1 「学校統廃合と廃校の利活用」 ・少子化が進むから学校の統廃合が必要になるのではなく、市町村合併により合併前はそれぞれの市町村毎に設置義務があったのが、合併後は新たな市町村単位での設置義務となり、統廃合が法的に可能 ・しかし、それは小規模校の統廃合だけでの検討ではなく、市全体で検討することの基本でもあり、全体としての取り組みの困難さを感じる ・また、小中一貫校としての新たな取り組みを組み入れることも安曇野市として検討することが必要ではないかと感じた。 2 「キラリと光る質問原稿の書き方」 ・質問には、質疑、一般質問、代表質問が考えら、行なうときは、単に行政の所信をただしたり、事実関係を明らかにするだけでなく、所信をたやすことによって、行政の政治姿勢を明らかにして、結果政策の変更や新規の政策を採用させることに繋げるようにしたい。 それには、背景を把握してや事前調査を行い、担当課との調整の重要性が分かった。 ・市民は、皮膚感覚でものごとを判断するので、理論的に質問して市民に分かりやすい質問に取り組みたいと考えます。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後Xにまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	地方議会議員研究会主催の研修会へ参加	
活動区分	⑦ 調査研究 ⑧ 研修 ③ 資料作成 ④ 資料購入 ⑤ 広報広聴 ⑥ 要請・陳情 ⑦ その他	
活動の目的	「決算カード」の目的・見方・使い方を学び、自治体の財政の現状・問題を把握し、対策・提案するという議員活動に活かすため	
活動の概要	日時	平成 31 年 1 月 22 日（火）10 時 00 分から 16 時 30 分まで
	研修先・主催者等	主催者 地方議会議員研究会 場所 TPK 東京駅八重洲カンファレンスセンター
	報告内容・実施したこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・決算カードとは自治体財政の基本情報である。財政分析を行ない、時系列で自治体財政の変化を捉え、変化の背景や原因の分析ができる。 ・さらに詳細は「地方財政状況調査」で調べることができる。人口規模や産業構造が似た全国の「類似団体」との比較もできる。 ・地方財政の仕組みについて、租税は歳入校正の 4 割弱で残りは地方交付税・国庫支出金等と地方債で賄っている。地方交付税を受けていない不交付団体は全国で 5% ある。 ・地方税は制度の大枠は地方税法にて規定されているが、税率の引き上げや新しい税の創設も一定のルールで対応可能である。 ・地方交付税は、国が地方の代わりに国税の一部として徴収し、一定の基準に基づいて地方自治体に再配分する間接課税形態の地方税であり、一般財源として扱うことができる。臨時財政対策債は、自治体が一般会計で対応できない地方財源不足を賄うため赤字債発行を認めたものである。当面はしのげるが、自治体の赤字債残高が積みあがる懸念を抱えた仕組みである。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	<ul style="list-style-type: none"> ・決算カードは自治体の財政を診断するもので、危機状態も含めて相当のことが分かることを理解した。類似団体比較も参考に本市の財政の現状を再度きちんと把握したいと考える。 ・全国には数は少ないが不交付団体もあるので、本市も安易に借金を増やして禍根を将来に持ち越すのではなく、自主財源を確保する方向性か、健全な財政運営がされているのか、議会としてチェック機能を果たしていくべく努力する所存である。

別紙

政務活動実施状況

活動名	資料購入	
活動区分	⑦ 調査研究 ②研修 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報広聴 ⑥要請・陳情 ⑦その他	
活動の目的	教育界の動向や課題について理解を深め、市政に反映させるため	
活動の概要	日時	平成 31 年 3 月分
	研修先・主催者等	資料名 日本教育新聞 発行元 株式会社日本教育新聞社
	報告内容・実施したこと。	・防災学習（東日本大震災から 8 年の特集等）、教員の働き方改革、児童虐待対策、いじめ問題、特別支援教育等について文科省の動きや全国での取り組みについて理解を深めた。
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	・教育専門紙である同紙から得た情報から必要に応じて調査をし、教育行政に対して議員・議会としてチェック機能を果たし、政策提案に活かしていきたい。

備考 政務活動等実施状況は活動ごとに作成し、領収書その他支出を証する書類を最後にまとめて添付すること。

別紙

政務活動実施状況

活動名	会派市政報告会	
活動区分	⑦ 調査研究 ② 研修 ③ 資料作成 ④ 資料購入 ⑤ 広報広聴 ⑥ 要請・陳情 ⑦ その他	
活動の目的	会派の市政報告と市民の方との意見交換を行い、市政に反映させるため	
活動の概要	日時	平成 31 年 1 月 12 日（土）13 時 30 分から 15 時 30 分
	研修先・主催者等	主催 安曇野市議会 会派 政和会 場所 堀金公民館 会議室 1
	報告内容・実施したと。	参加人数 36 名 1 会派政和会の市政報告 ・視察報告 「防災に強いまちづくり」に関する研修・視察、安曇野市内の「荒廃農地の再生」「文化遺産を受け継ぐ取り組み」の視察、北九州市の「男女共同参画の取り組み」「介護ロボットの実証実験」の研修・視察、奈良県生駒市の「育児支援行政サービス」、友好都市・奈良県三郷町の「童謡のまち」「議会だより」「サテライトオフィス 35」の研修・視察について報告した。 ・市議会開会の状況、市民からの請願・陳情の議会での採択等の結果を報告した。 2 意見交換 ・「人口減少に向けたまちづくり」「公共施設再配置計画」のテーマを設定し、市民の方から多くの意見をいただいた。 ※別添の資料を参照
	まとめ（感想・市政に活かせること等）	「人口減少に向けたまちづくり」 「公共施設再配置計画」 のご意見をいただいた。今後対策に取り組み、代表質問・一般質問等でも取り上げていきたい。 報告会に対しては、「市政について勉強になった。」「会派報告会を今後も続けてほしい」とのご意見をいただいた。来年度も開催し、活動報告や市民の方との意見交換を行っていく方針である。